689
2017年
12月発行

よろこびの泉

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
新約聖書　ルカ2:11

救い主の誕生

星よ光りて

水野　源三

一、ユダヤの国の小さき村に
悩み苦しむ人々救う
神の一人子生まれしことを
知らせよ知らせよ星よ光りて

二、君の君をば拝するために
くらき夜道もよろこびいさみ
はるばると行くものを導き
進めよ進めよ星よ光りて

三、救いの御子が産声上げて
真白き布でくるまれたまい
静かにねむる馬屋の上に
止まれよ止まれよ星よ光りて

水野　源三詩集「わが恵み　汝に足れり」より

作者は小学四年の時、赤痢の高熱から脳髄炎を発症、首から下の全機能を失う。十二歳の時聖書に出会いイエス・キリストを信じ、残された機能、目の瞬きにより詩を作られた。

発行所　〒630-0266　奈良県生駒市門前町七―四〇　日本ミッション
電話〇七四三（七三）一七五四　振替口座〇〇九三〇―二六六四二番

発行人　ファベイ・D
編集人　日本ミッション編集部

印刷所　〒350-0303　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
電話〇四九（二九八）〇七二七　新生宣教団印刷部

一年分　送料共　九〇〇円
定価　一部　一八円

質問箱

問　「クリスマスにはサンタさんに『スマホ』をお願いするんだ。友達はみんなサンタさんから貰って持っているよ。ボクはうっかりしてまだ頼んでなかったんだ。ねえおかあさん、いいでしょう。」この子どもの問いにどう答えたら良いのでしょうか。

答　さて、この会話の続きは「そんな高いものをおねだりしたら、サンタさんは困っちゃうんじゃない。それにサンタさんは、君にはまだ早いって思われるかもよ。」「大丈夫、サンタさんはお金持ちなんだから、世界中の子どものどんなお願いも聞いてくれるんだよ」でしょうか。

十一月になると街中でクリスマス商戦が始まり、サンタに扮した店員が子供たちにプレゼントの品定めを誘います。親の知らない間に子供は夢を膨らませているのです。子供時代のサンタクロースのファンタジーを壊したくない親の気持ちはわかりますが、クリスマスは、サンタクロースが、年に一度訪れ、子供のほしがるものを気前良くプレゼントしてくれるというくらいな、楽しい家庭のイベントにすぎないというものではないのです。

実は、比べることができないほどの大きな祝福が伴い、将来を導いてくださるのです。それが神のみ子イエス・キリストの誕生です。

2千年前、イスラエルのベツレヘムで最初のクリスマスの夜、神の御使いが告げた言葉はこうです。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」（ルカ2・11～12）

この言葉は現代に生きる私たちへも届けられています。どんな高価なプレゼントも、やがて古びて価値を失い、壊れ、捨てられてしまいます。物質的な贈り物のよろこびは束の間です。しかし、イエス・キリストが来てくださったということは、又すぐ帰ってしまうという過去の思い出話ではなく、あなたの生涯、いつもいつまでも共にいて平安を与え、罪を許し、最後には永遠の命を与えて天国に迎えてくださるのです。

途方もない神さまからの贈り物を受けて、本当のクリスマスを迎えるため、教会へおいでください。

（児玉　博之）

親と子のしあわせ 397

十二月に入ると町にはクリスマスソングが流れ、人々がなんだかウキウキしています。

私の勤める幼稚園のクリスマス会では、毎年『聖誕劇』を上演します。クリスマスにお生まれなさったイエスさまの誕生の様子を、年長、年中組の子どもたちが演じるのです。年少以下の子どもたちは、星の子どもとして歌で出演します。配役は、お母さんのマリヤさん、お父さんのヨセフさん、東の国から来た博士三人、あとは羊飼い、ナレーター、天使、宿屋さんですが、意外と人気がないのはヨセフさん役です。

女の子たちの間では、「わたし、マリヤさんしたいな。」「お母さんがマリヤさんいいねって言ってた。」男の子たちは「僕は博士。かっこいいもん。」「ヨセフさんは、一人で歌うから緊張するな」など、色々言っています。担任の先生が勝手に配役を決めないで、子どもたちと話し合います。その前に子どもたちに、どの役も大切なこと、みんなで心合わせることの大切さを話しますが、なかなか決まらない年もあります。

「お母さんに聞かんとわからん。お母さんがマリヤさんをしてって言ったから。」と言う子がいました。お母さんは、できたらいいねという程度で言われたようですが、子どもはお母さんが悲しむからと悩んでいました。クラスの皆で話し合い、結局希望通りにならなかったようですが、その子は決まった役を一生懸命演じました。お母さんも、頑張ったことをたくさんほめておられました。私は、神さまはきっと見ていてくださると思いました。

私たちの人生でも思い通りにならないことが多いです。そんな中で、私たちが一生懸命努力し、耐え、ゆるすことを神さまは見ておられ、その気持ちを知っていてくださいます。神さまの御子であられるイエスさまも馬小屋でお生まれくださり、思い通りにならないことや貧しさや苦しさを体験してくださったからです。

「自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」（ピリピ2・4）忙しくなると、つい自分のことしか見えなくなる私たちですが、子どものこと、相手のことを考える者でありたいです。

（相原　幸紀美）

＊この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。
これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

I面写真：高原幸男

●質問箱への投書（100文字以内）よろこびの泉に関するお問い合わせは Izumi@japanmission.org まで

変ることのない愛に出会って

栗東市　河村　三郎

高校の修学旅行で初めて韓国へ行った時、現地の高校生が徴兵制度に大きな悩みを持っていることを知りました。二度目は、二〇〇〇年の秋、韓国語を学ぶためソウルの大学へ。そこで韓国人と留学生の出会いを持つためのパーティに出席し、クリスチャンの友と出会い、彼らが信じる神に興味を持ち始めたのです。

▲結婚式で、家族とともに

二〇〇〇年の秋、私は下関からプサンに向かうフェリーの中にいました。生涯で二度目の韓国入りのためでしたが、その韓国で私の人生は大きく変わることになったのです。二十代半ばのことです。

一九七五年八月、私は滋賀県の五個荘町という田舎町で生まれました。四人兄妹の末っ子で平凡な田舎の子どもとして成長したと思います。

韓国での衝撃と出会い

そんな平凡な私の人生に変化のきっかけを与えたのは、高校の修学旅行でした。私はこの修学旅行で一つの衝撃を受けたのです。それは韓国の高校生たちが、軍隊に行かなければならないことで、大きな悩みを抱えているということでした。私は高校を卒業して大学に入ったら、四年間は自由に過ごすことができると考えていました。勿論そこには様々な問題があり、悩みや苦しみがあるにしても、義務として軍隊に入り、そこで自分の身を危険にさらすことはありません。韓国の男性が軍隊に行かなければならないことは事前に学んでいましたが、韓国の高校生たちと交流の機会を持ち、また兵役に就いている若者たちを見て、彼らの存在が単なる知識としてではなく、身近な問題として迫ってきました。私は韓国の高校生たちの置かれた状況に驚き、その背後にある歴史に興味を持ち、日本と韓国の関係について考えるようになりました。

二〇〇〇年秋、韓国に渡った私はソウルの大学で韓国語を学びました。そしてこの時に初めて、クリスチャンと呼ばれる人たちと出会いました。

韓国に渡って一ヶ月ほど過ぎた頃、ＩＳＦ(International Student Fellowship)という団体の主催するパーティーがありました。これは韓国人と外国人留学生が出会いを持つためのパーティーでしたので、韓国人の友だちを作るいい機会だと思って、パーティーに参加し、一人の友だちと出会いました。その人はクリスチャンでした。

クリスチャンの神とは？

私はそれまで本当に心を許すことのできる友だちがいませんでした。人を信用することができなくて心を開くことができませんでした。しかし、その友だちに対しては、自分の悩みや問題をごく自然に話すことができました。その友だちは就職をして間もない頃で、多くのストレスを抱えていました。また、教会でも様々な奉仕をしていて、それで、とても忙しい日々を過ごしていたのですが、私のために時間を作ってくれていました。この出会いを通して、クリスチャンと呼ばれる人たちが毎週日曜日に教会で何をしているのか、彼らの信じる神様というのはどんな方なのか、といったことに興味を持つようになりました。

私は迷いに迷った末に、その友だちが通う教会の礼拝に足を運びました。礼拝に集まった人たちは、大きな声で神様に向かって歌を歌い、長い説教を聞き、涙を流しながら祈っていました。私は今まで自分の経験したことのない雰囲気に驚き、ちょっと危ない世界だと思いましたが、もう少しキリスト教のことや聖書のことを知りたいと思ったので、日曜日の礼拝に続けて出席してみました。

しかし、聖書に書かれていることや説教で語られていることを、なかなか受け入れることができませんでした。神様が世界を創ったとか、イエス様が復活したとか、イエス様だけを信じないといけない、などというようなことは、とても受け入れることができませんでした。むしろ、そんなことを大真面目に信じている人たちがいるなどとは、想像もしていませんでした。

私は教会の人たちの排他的と感じられる考えに、強い拒否感を抱くようになり、そのために教会の人たちとしばしばケンカ腰の議論をし、そして結局、四ヶ月ほどして教会を離れました。

罪に気づいて

しかし、私が教会に行かなくなっても、ＩＳＦのパーティーで出会った人たちは、変わることなく、私を友だちとして受け入れてくれました。ある日、韓国を去る留学生の送別会に招待され、その席で一冊の本をプレゼントされました。それは『アダムよ、お前はどこにいるのか』という名前の本で、旧約聖書の初めの部分のことが書かれていました。私はこの本を読みながら「罪」について考えました。

そして日本と韓国の関係について考えました。創世記3章5節には、「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」と書いてあります。聖書の語っている「罪」というのは、人間が神様を追い出して、自分自らが神になろうとすることだということに気がつきました。

戦後50年以上を経た後も、日本と韓国が事あるごとに対立を繰り返しているのは、聖書が語るこの「罪」のせいではないかと思いました。私たちはこの「罪」のために、それぞれが神となって、喧嘩や戦争を繰り返すのかもしれない。聖書に書かれているこの「罪」が人間の本質を見事に言い当てていると思いました。そして、自分自身を振り返る時、自分もまた同じ罪人であるということを認めざるをえませんでした。

それからは、とにかく聖書を神様のことばとして受け入れるようになりました。すると、それまで信じられなかったこともすっと受け取れるようになり、私の心は聖書のことばに対して開かれていきました。そしてほどなくして、イエス・キリストを信じる信仰を告白し、新しい人生を歩む決心をしました。二〇〇二年、二十代後半のことです。「しかし私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んでくだったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ5・8)

愛に生かされ　そして結婚、牧師に

この時以来、イエス様の愛に生かされるようになりました。振り返ると、何も変わっていない自分の姿に気づかされることもしばしばありました。しかし、そのような自分のためにイエス様が十字架にかかってくださったのだ、この変わることのない愛に支えられているのだということを覚えながら。生きてきたように思います。

現在は滋賀県の栗東キリスト教会(世界福音伝道会)で牧師として働かせていただいています。二〇一二年の秋に結婚した妻の亜希、神学生時代に授かった二人の子ども恵と光が一緒です。

私は自分が牧師としての道へと招きを感じた時、大きな戸惑いを覚えました。無責任で、いい加減で、指導力やこれといった能力もない自分に牧師が務まるはずがないと思いました。しかし、そういう葛藤の中から、神様から与えられたことばによって、確信を持って、牧師となる道へ足を一歩踏みだしました。「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」(テモテⅡ2・15)

神学校を卒業し、栗東キリスト教会に赴任して、半年余りが経ちました。いつも、神様のことば、真理のことばをまっすぐに説き明かしたいと願っています。私を変えた神様のことばには、人々にいのちを与える力があることを確信しているからです。

主イエス・キリストのご降誕をお祝い申し上げます。

二〇〇四年一〇月一七日、洗礼を受けました。